

令和4年度第2回三木市創生計画策定検証委員会の概要

日 時：令和5年2月21日（火）

午後3時～午後5時

会 場：三木市役所 4階

特別会議室

第2期三木市創生計画 人口ビジョン・総合戦略（以下、「第2期創生計画」という。）について、令和4年度第2回三木市創生計画策定検証委員会（以下、「創生委員会」という。）を開催し、委員から意見をいただいた。創生委員会における主な内容は、次のとおり。

説明事項

- ・令和4年度第2期三木市創生計画 ～K P I 集～
- ・令和4年度地方創生に係る新たな取組

概要

K P I 検証資料を基に、令和3年度の各K P I の実績の検証に加え、これまで委員会で受けた意見を参考に令和4年度に進めている地方創生に係る取組を共有し、委員に意見を求めた。

主な意見

- ・三木若者ミーティングに関して、学生の中には意見を積極的に言える学生もいれば、そうではない学生もいると思う。そこで、I Tツールを使って学生の意見を吸い上げるような仕組みがあれば、さらに参加者増加につながるのではないかと感じるので、ぜひ検討してほしい。
- ・デジタル化の取組が多く紹介されている一方で、地図情報などのデジタル化が進んでいないところも一部見受けられる。ぜひ全庁的にデジタル化を進めてほしい。
- ・企業と連携して進めている事業が多く、非常に良いことであると感じる。企業が関わることで情報発信力はさらに大きくなる。すべて市だけで情報発信しようとするのではなく、企業の力を活用し、外部から三木市を発信していくことも意識して進めてほしい。
- ・I T化が進むと、個人に入ってくる情報はその人の好みに合うものばかりに選別されてしまうため、誰でも知っているということが無くなっていく。言

い換えると、偶然三木市の何かを知ってもらえるという確率がどんどん減ってくるということである。そのあたりの特性を踏まえながら、どういう風に三木市の情報にアクセスしてもらおうかを考えることが重要である。

- ・ 少子高齢化に伴う1番の課題は、企業の人手不足であると感じている。新たな働き手がない上に、現在働いている人の高齢化も進んでいるという状況である。そこで、人手不足を解消することや、高齢化に対応するための業務の効率化及び省力化をまちぐるみでサポートすることが必要である。さらには、それが企業誘致にもつながるのではと考える。また、新たに三木市に移転してきた企業が新たな地で採用を進めることは難しい部分もあるかと思うので、行政が間に入り求職者とマッチング支援をしていくことなども今後重要であると感じる。
- ・ 令和6年度に造成工事開始予定のひょうご情報公園都市において、誘致する企業はその時の経済状況なども影響してくるかと思うが、多様性という観点から様々な業種の企業を誘致することも視野に検討してほしい。
- ・ 将来を見据えて積極的に事業を進めていることに非常にワクワクした。原点回帰として三木市の関係人口を増やすといった意味では、これらの取組がこれまで三木市に関係のなかった企業や人にも届くような情報発信力を身につけることが重要である。HP等を見に行けば情報があるが、見に行かなくても情報が入るような仕組みやノウハウが身に付くよう、企業とも協働しながら進めていってほしい。
- ・ ICツールの活用については、一部の職員に労力が偏る可能性もあるので、今後、多くの職員が活用できるようにデジタル人材の育成を行い、ITリテラシーを高めていってほしい。
- ・ 社会課題を解決するため、企業と協働して先進的な取組を実証実験的に進めていることは非常に良いことである。ベンチャー企業をはじめ、様々な企業においても社会課題を解決するための先進的な取組を検討されている。そういった先進的な取組をどこの自治体よりも一番早くに取り入れるということが非常に重要なことであり、そうなるためには三木市を実証のフィールドとして活用してもらえるようなPRを積極的にしてもよいのではと感じる。そうすることで三木市には新しいサービスや技術が残り、三木市創生計画の方針である人口減少を食い止めたいということと、若年人口増にもつながってくるのではないかと思うので、是非、実証実験的な取組をどんどん増やしていってほしい。また、そういった取組を2025大阪・関西万博に向けて、何をめざしていくかという切り口で発信していくことが重要である。

- ・政策研修等については、一過性のものにならないよう、実際に新たなことを考え、市長に対してプレゼンを行い、採用された場合は市の事業として実施するなどの明確なゴールを設けることが効果的であると考えている。
- ・地場産業の活性化において、将来の担い手となる学生たちに対して地場産業に関する企業で働くことの経済面等のメリットを明確にし、自信を持ってPRしていくべきであると考えている。労働団体と行政が連携してPRしていくべきである。
- ・今後、地域の未来を担う子どもたちにとって安全なまちという観点は非常に重要であり、地域の魅力を高める効果やセールスポイントの一つになってくるのではと考えている。そう考えたときに、現在進めている「LITE DXを活用した子どもたちの交通事故ゼロをめざすまちづくり事業」などの取組を進めていくことは非常に重要であると考えている。今後も様々なシステム等を利用しながら、さらに危険な場所等を分析し、どんどん取組を発展させていってほしい。
- ・三木市では、国勢調査の統計で予想されている人口予測より、現状上回っていることは素晴らしいことであると思うが、兵庫県では、人口540万人を割るなど、全国的には人口減少及び少子高齢化は共通した大きな課題である。そういった背景がある中でKPI集を見て感じたのは、目標値が右肩上がりになっているものが多くあるが、一部は現実的に考えて難しい目標もあると感じた。そういったものは数ではなく質を求めるという発想の転換も必要であるため、計画等を作成する際は意識してほしい。
- ・様々な取組を進めているが、これらを市民にどのように見せていくかということも意識して進めてほしい。目に見える形で三木市がどのような取組を進めて、どのような成果を出しているかということをアピールすることが重要であるとともに、そこからさらに協力関係ができて好循環が生まれていくのではないかと思うので、意識して取り組んでほしい。